

第2回商工観光専門委員会での主な意見

(雇用)

- ・ルネサス関係について、今後雇用・再雇用の問題が出てくる。Uターン希望者よりも優先的に考えていかなければならないのでは。
- ・鶴岡市でも県外において、就職についての企業説明会を実施するべきである。

(産業振興)

- ・「地域の強みを生かした地力ある産業の振興」とあるが、あまりに漠然としており、何をしていくべきなのかというものが見えてこない。
- ・助成金や減免等、企業にとって有益な制度は多々あるが、あまりにも使いづらい。地方の中小企業の活性化のためにも、申請方法等、もっと利用しやすい環境にしていかなければならないのではないかと。
- ・鶴岡に住みたい、暮らしたい、帰ってきたいという人はたくさんいるが、仕事がなく鶴岡に帰ってこれないのが現状である。起業する人を育てるという要素が必要なのではないかと。
- ・鶴岡でもIT関連など、1人でも起業できる業種というものが増えていくと考える。そういうものに力を入れていかなければならない、という項目があってもいいのでは。
- ・「手に職をつけたい」と思う方々は結構いる。そういった方々から積極的に伝統産業等の講習を受けてもらい、「鶴岡の産業」を残していきたい。
- ・民間の方がより活動しやすいよう、後押しをしていくのが行政の大きな役割であり、主力は地域の企業である。
- ・国でも創業関係の助成金制度を設けるなど、「創業」について力を入れていく方向である。
- ・補助金制度を利用するのは一中小企業だけではなかなか難しく、行政のサポートが必要である。

(商店街)

- ・市街地商店街の衰退が進んでいる一方、大手のチェーン店ばかりが増えている。今後、小規模な地元の店をどう守っていくか、育てていくかという項目もあっていいのではないかと。
- ・TMO事業について「TMO事業の取組みの支援」という形のやり方から、もっと具体的にどう発展させていくか、考えていかなければならない。

- ・地域の商業の方々、担い手の方々との話し合いの中で、いかに地域全体として考えていけるかが重要である。
- ・「多様な交流による中心商店街の活性化」について、行政の言っているターゲットを明確にしてほしい。

（観光メニューの充実）

- ・観光タクシーや観光バス等でやってくる方はだいぶ減っているように感じる。これからは、1対1での説明等、きめ細やかなサービスが大事になってくる。

（観光振興全般）

- ・広域観光を充実させていく上で、観光の連携や情報の共有が必要である。
- ・「多様な観光ニーズを踏まえた誘客の促進」とあるが、やはり目玉みたいなものができれば集客しやすいのではないか。
- ・宿坊も冬期間の観光資源として考えると「創出」につながるのでは。
- ・「手向宿坊街の景観整備と体験交流メニュー」とあるが、固有名詞を入れて「手向宿坊街・六十里越街道景観観光整備」として欲しい。

（交通）

- ・観光地を繋ぐ2次交通の充実について、利用者と提供側双方の意見を吸い上げた上で「主な施策」として反映していただきたい。
- ・公共交通機関があまりにも貧弱であり、考えていく必要がある。

（人材育成・活用）

- ・観光に関しての「人材育成」のためには、情報の集まる場所、プラットフォームみたいな場所づくりが必要である。